

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果  
作成日

令和 5年 4月 25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	グループホームひだまり		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25		
自己評価作成日	令和5年4月25日	評価結果市町村受理日	令和5年6月9日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和5年18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的雰囲気の中で利用者様一人一人の思いに寄り添った個別ケアを行っています。一日を楽しんで頂く為に、四季折々の季節感を味わって頂く行事やリビングでの飾り付けを企画しています。コロナの影響で外出するのが難しくなってきた為、近くのお地蔵様まで散歩に行ったり、体操やドライブ、レクリエーションなどでストレスが溜まらないように気分転換を図ってもらっています。理念を大切に、利用者様に思いやりを持ち、日々笑顔で暮らせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

営業開始してから日数が経っていると思えない程、外観は綺麗であり、また市街地からは離れているため、のどかな田園風景が広がり、非常に良い生活環境といえます。また、高齢者施設では重要度の高い項目といえる食事ですが、こちらでは外注ではなく、スタッフと利用者が考えた献立を利用者も調理を手伝い、毎食提供しており、利用者の満足度は高いものになっています。

法人運営としては、まず理念とは別に年一回スローガンを法人会議で作成し、それをスタッフ間で共有できています。また、年2回の人事考課やスタッフ会議・個別面談でスタッフへの勤労意欲や運営改善点等を考慮・配慮・状況確認や意見交換をおこない、スタッフを大切に、運営とスタッフ間の関係性は非常に良好だといえます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念の共有を図り、利用者様が笑顔にいられるように取り組んでいる。	法人とは別のグループホーム独自の理念を作成し、朝礼の際に唱和する機会を設けています。また、理念とは別に法人会議で年一回変更するスローガンを設けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩で近くの施設の方と挨拶程度はある。運営推進会議で地域の方と交流を図っている。	コロナ禍前は近隣の中学校の音楽祭、保育所のお遊戯会に呼んでもらい、参加していました。社会情勢は落ち着きを取り戻してきているので、今後、交流計画を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症に限らず介護全般における知識の共有化を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人の参加が徐々に増え、グループホームの取り組みや現状報告を行っている。地域の住民から意見を頂きサービス向上に活かしている。	今年の4月より対面での会議を再開しています。参加者は家族・民生委員・包括支援センター職員になっており、様々な意見交換をしています。また、書面にて参加者や家族に議事録を送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	海南市の地域ケア会議に参加し、サービスの取り組み等を伝えている。市の担当者は運営推進会議に参加して下さり、協力関係を築ける様に取り組んでいます。	コロナ禍でも市の外部研修にリモート参加し、運営推進会議終了後に市の認知症ケア専門士の方を講師として招き、内部研修をおこなったりと関係性は良好です。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	建物の構造上、危険防止の為玄関、ベランダは施錠していますが、その時々で自由に対応しています。	身体拘束等適正化検討委員会を3か月に一度開催し、センサーマットを居室で利用している利用者に対し、外すことはできないかと話し合いを持つ等、常に利用者本位を念頭に置いています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、虐待が見逃される事がない様に努めています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいるので制度について学ぶ機会を設けています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際は、理解・納得の出来るように十分に説明を行い、意見や要望等聞いています。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議と年2回の家族会で話し合う機会を設けている。今年度はコロナの状況を見て家族会を検討する。	コロナ禍前は家族会で1回は家族と利用者で食事会を、1回は敬老会のあとお茶会をそれぞれ催し、その際に様々な意見や要望を聞き、運営に反映させていました。今後はお茶会を再開する計画を立てています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	年2回の人事考課での面談の他、スタッフ会議や個人面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	人事考課ではスタッフの自己評価の確認を、スタッフ会議では目標や反省点をあげ、適宜個人面談をおこない、スタッフが事務処理の軽減を訴えた際は実際に書類を簡素化する等、法人はスタッフの意見を尊重した立場をとり、関係性は良好であることをうかがわせます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて、実績の評価や今後の目標、希望を聞き働きやすい環境整備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会で職員一人一人の力量を把握し、働きながらトレーニングできるようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ケア会議に参加し、同業者としての交流の機会を作っています。同法人のグループホームとの交流を持ち、サービスの質向上に取り組んでいます。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族様から十分に聞き取りを行うほか、年代別シート、好き嫌いシートを記入して頂く事で、本人が困っている事不安な事を明確にし関係作りに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様が困っている事や不安な事、要望等に耳を傾け関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題の優先順位を明確にし、必要としている支援を見極め、必要としている支援を見極め、必要であれば他サービスの利用も含めた対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とおなじ視線で物事を考え、料理や後片付けを一緒に行って頂き、野菜や花を育て生活を共にする。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族様のニーズを聴きながら、絆を大切に、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナの影響で馴染みの人が訪ねてくることはなかった。以前は時々訪れて来てくれていた。	コロナ禍の際は面会謝絶でしたが、それでも墓参りや美容室に行く等関係性は継続しています。今後については面会は再開しており、社会交流の機会は増えると想定しています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に合わせ、利用者同士が関わり合い、支えるような支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人退所後も予要望があれば、相談に応じてより良い関係を継続できるように努めている。		

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや24時間生活シートの記録し、ニーズを拾い出しケアプランに反映している。	利用者基本情報にて本人の意向や家族の意向を把握しています。個人ファイルはスタッフ室に保管しており、いつでも閲覧できるように設置しています。また、生活シートにより1日の利用者の生活状況が把握できるようになっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年代別シートや好き嫌いシートを活用し、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活シートを使用し、1日の過ごし方や状態を記録しており現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題を分かりやすく記録し、処遇会議で話し合い、より良い支援が行えるように努めている。	計画書、モニタリングとも3か月に一度見直ししており、見直しシートも一緒に活用し利用者の意向に沿った援助を提供しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、24時間シート、申し送りノート、利用者個別ノートで職員間の情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて訪問看護を利用し、サービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験、デイでの慰問に参加し楽しく生活できるように支援しています。昨年はコロナの影響で中止だったが今年未定。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人、家族の意向で決めて頂いている。主治医とは連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、本人・家族の意向で決めており、以前からのかかりつけ医で診察を受けている方もいれば、ホームの連携医で診てもらっている方もいます。ホーム医は24時間対応、2週間に1度の往診等連携を密に図り、利用者・家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護師やデイサービスの看護師に相談し、適切な医療を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の地域連携室や担当医との連絡を取り、情報交換や相談を行い関係づくりを行っている。」		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、家族様の意向を尊重し、主治医と相談しながら適切な対応がとれるよう取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の指針等の説明を行い、本人・家族の希望を尊重しながら適切な対応をとられています。また、3年前より看取りを実施し、2件の実績があり、環境を変えることなく最期まで慣れ親しんだホームで過ごせるよう努力しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル元に話し合い、救命救急訓練に参加し、消防署職員により指導頂く。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成し、職員は周知している。地域との協力体制を築けるまでには至っていない。米等の食料はある程度確保している。	年2回消防訓練を行い、同法人のデイサービスや有料老人ホームと合同で実施し協力関係を築いています。備蓄も食料や飲水等を3日分程度用意し、定期的に点検もおこなっています。	スタッフが少人数の中での対応を確認するため、年2回のうち1回は夜間を想定した訓練を実施してはいかかでしょうか。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様の尊厳を守る言葉遣いを心がけている。</p>	<p>ほとんどの職員がケース会議等に参加し、利用者の対応について話がされ、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応や言葉かけに配慮した支援をしています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>質問の際は、自己決定ができるような聞き方をしている。会話の中で思いや希望を聞き出している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースを大切にして、希望に添えるように支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>散髪時の髪型や、スタッフによるネイルアートなどおしゃれを楽しんでい頂いている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スーパーへの買い出しや調理、食器洗いなど、身体機能に合わせて手伝って頂く。スーパーの買い出しはコロナの影響の為に中止している。</p>	<p>献立や調理はすべてホームで考え作られています。コロナ禍で買い出しは職員が行っていますが、食卓準備や調理等は個々の利用者の能力に応じて行ってもらっています。また、個々に合わせた食事形態を把握し、提供しています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>生活シートに1日の水分量、個人の食事量を記入し、本人の健康状態の把握を努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、本人の状態に合わせた口腔ケアを実施している。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間生活シートや排便チェック表で個別の排泄サイクルを把握し、職員が誘導を行い尻いつ支援に繋げている。	24時間生活シートを活用し、個々の排泄サイクルを把握し、それに応じて適時の誘導や交換を行っています。オムツ使用の方でも職員2名介助で日中トイレでの排泄をしてもらえるよう職員間で協力し自然な排泄の場を提供しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表や食事量をみて、主治医の指示のもと便秘薬服用を行うが、他にも水分強化や食事でも便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望により毎日入浴する利用者様もいる。入浴を嫌がる利用者様には、タイミングを見て誘い個々に添った支援をしている。	週2回午前中入浴することが基本となっていますが、希望により毎日の入浴や好きな時間に自由に入浴できる体制となっています。入浴を拒否される方には、無理強いをせずタイミングを見たり、声かけをする職員を変えたりと個々に添った支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも横になりたいと要望があれば、自室に戻って頂いたり、一人一人状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬の内容を記録し、職員全員が把握するように徹底している。薬の管理は職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を把握し、生活の中に役割を取り入れ、各利用者様の気分転換を図っている。		



49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩、ドライブ、カラオケ等、希望に応じて支援しています。また家族とも外食やお墓参り等出かけている。コロナの影響もあり外出は出来ていない。</p>	<p>コロナ禍の中でも、月1回はドライブに出かけたり、ホーム周辺を散歩したりと可能な限り戸外へ出かける機会を支援しています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一部の方は、お小遣い程度を所持され、買い物支援で欲しい物を購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の要望に応じて電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様が心地よく暮らせるように、季節感を取り入れたり、天候に合わせて光や温度調整を行っている。</p>	<p>利用者が居心地よく過ごせるよう、季節感を感じさせる創作品などを飾られたり、室内の温度や湿度調整を行っています。共用空間は日中のんびりと過ごせるようソファを多く配置され、気の合った利用者同士が座れるよう工夫しています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った利用者様同士の座席配置を行い、日中は気兼ねなく過ごせるように配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた馴染みの物を使用している事で、居心地よく暮らして頂ける様に配慮している。</p>	<p>ベッドやダンスは備えつけとなっていますが、それ以外は、馴染みの物を持ち込んだり、写真を飾られたりすることで自宅に近い環境で居心地よく暮らせるような工夫をしています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>残存能力の把握に努め、本人のADLに応じて環境整備を行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない